



いざという時に役立つ家庭での応急処置



川西市消防本部

日常生活の中で突然思いもよらない事故で、急いで対応しなければならないことが起ったり、自分で対応してよいものなのか、救急車を呼ばなくてはいけないのではないかなど、判断に迷うことがあると思います。しかし、普段からある程度の知識を持っていれば、そういった時でも冷静に対応することができ、過剰に心配して、騒ぎを大きくしてしまうことも少なくできるでしょう。自分である程度の処置をすることも必要であり、救急車が到着するまでの間に一時的に家庭でできる応急処置を知っておくことは、とても大切なことです。落ち着いて冷静に対処すれば意外と少しの処置で済むこともあります。

今回、いざという時のために役立つ家庭での応急処置を簡単にまとめてみました。これ以外にも、ひとりひとりが「かかりつけ医」を持って、医師にいろいろと相談し教えてもらったりして、日頃から医学的な知識を身につけておくこともとても重要なことです。

すり傷・切り傷

転倒などでのすり傷やガラス片などでの切り傷の場合、まず水道水で周囲の汚れをきれいに落とし感染防止に努めてください。出血がひどい時は、洗浄せずに清潔なガーゼやタオルなどで傷口全体を覆い、上から圧迫をして止血し、病院を受診するようにしてください。

刺し傷

トゲなど小さなもので、出血や痛みがほとんど感じられない場合は、トゲの先を毛抜

きなどでつまんで抜き、傷口を消毒してください。傷口が大きいようであれば絆創膏を貼るなどして感染防止に努めてください。釘、ガラス片、ナイフ、木片など比較的大きなものが刺さった場合には、抜かないで病院を受診するようにしてください。古い釘など汚れたものが刺さった場合、呼吸困難やけいれんが起こる破傷風という病気にかかる恐れもあるので注意が必要です。病院を受診する場合は刺さったものも持っていくようにしてください。

熱傷（やけど）

【熱傷の深さによる分類】

- ・ I 度熱傷 → 発赤
- ・ II 度熱傷 → 水疱（水ぶくれ）又は水疱が破れた状態
- ・ III 度熱傷 → 白っぽく、痛みを伴わない

比較的軽い熱傷（I 度熱傷、狭い面積の II 度熱傷）の場合、すぐに水道水や冷水で患部を 10～20 分間冷やすことで、痛みは軽減し、熱傷後の炎症反応の波及を防ぐことができます。水疱はできるだけ破らないように保ち、靴下など衣類を着ている場合は、脱がさず衣類ごと冷やします。水疱が破れた場合は化膿する恐れがあるので、病院を受診するようにしてください。また広範囲の I 度熱傷の場合は冷やすときに体が冷えすぎないように注意してください。十分に冷やしていれば急ぐことはありませんが、そのまま放置すると感染症を起こして治りにくくなる可能性があるため注意が必要です。

広い面積の II・III 度熱傷の場合は、きれいなシーツ等で体を包み込み、感染防止と保温に努めます。狭い範囲の III 度熱傷の場合は、きれいなガーゼやタオルなどで被覆します。このような重症の熱傷の場合は、一刻も早く救急車を呼んで専門医の処置を受ける必要があります。

※ 重症熱傷は一般的に成人で体表面積の 20%以上、幼少時、高齢者で 10%以上

の受傷面積と定義されています。

犬や猫などに咬まれたとき

ほ乳類（人も含みます）の口の中には様々な雑菌がおり、咬まれた傷は汚染の程度が高いです。感染を起こすとその部位が赤く腫れ、痛みを伴い、また化膿する場合があります。石鹼と水道水で十分に洗い、きれいなガーゼやタオルなどで患部を覆い、病院を受診するようにしてください。出血がある場合は、清潔なガーゼやタオルなどで傷口全体を覆い、上から圧迫をして止血してください。万一組織（体）の一部を咬み切られてしまった場合は、救急車を呼び、断端を清潔なガーゼやタオルに包み、病院へ持って行くようにしてください。

蜂に刺されたとき

ミツ蜂、アシナガ蜂、スズメ蜂などに刺されると、直後に激痛が走り、刺された部位は赤くなり、痛みが1～2時間で治まります。処置としては、毒針を抜き、刺されたところを冷やします。ミツ蜂は毒腺（針）を残して飛び去りますが、これを除去するときは、根元から毛抜きで抜くか、ナイフ等で横に払って落とすようにしてください。（針を摘まむと、針の中の毒をさらに注入してしまうことがあります。）

スズメ蜂やクマ蜂のような大きなものや、多数の蜂に襲われ何か所も刺されると蜂毒の中毒状態となり、時に死亡する場合があります。また、過去に刺されたことがある人が再び刺された場合には、アナフィラキシーショックというショック状態となり、かなり危険な状態です。これは、頭部や頸部（首）を刺されるとよく起こり、刺された数分後に全身熱感とともに著しいかゆみを伴う蕁麻疹が体に広がり、頭痛、吐き気、嘔吐、下痢症状などを訴えるうちに、胸部の圧迫感、呼吸困難も加わり意識障害やパニック状態に陥ります。刺された後で、このような症状がでたときは、できるだけ歩かない（歩かせない）ようにし、救急車を呼び、病院を受診するようにしましょう。

へびに咬まれたとき

普段から、無毒へびと有毒へびの見分け方を知っておくとよいのですが、とっさの場合には区別がつかないことがほとんどです。日本での毒へびは、マムシ（北海道から九州に生息）、ハブ（沖縄、奄美諸島に生息）、ヤマカガシ（本州、四国、九州などに生息）です。

マムシとハブの毒はよく似ており、咬まれた直後に電撃性の痛みが出て、その後も灼熱感を伴った痛みが続きます。30分ほどで傷口が腫れあがり、腫れは次第に体の中心側へと進展してきます。さらに進行すると皮膚は緊満し、光沢を保ち水疱（水ぶくれ）を形成します。吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、複視（物が二重に見える。）などの全身症状を起こすこともあり、死亡する危険があります。

ヤマカガシは咬まれて直ぐには痛みや腫れはなく、4～12時間後に傷口から出血し、歯茎、皮下、内臓、粘膜からも出血するのが特徴です。毒液が直接目に入ると失明することがあります。

処置としては、毒へびに咬まれて気が動転して動き回るとは毒の吸収を早めるので、まず安静を保ち、咬まれた部位より体の中心側で軽めに緊縛します。このとき、動脈を止める（咬まれた部位より先で脈がとれない。）ほどの強い緊縛を行わないようにしてください。動脈を遮断すると、かえってへび毒が体の内に貯留してしまいます。へびの毒素により脱水症状を起こしやすいので、水分補給するようにしてください。体を水平に仰向けに寝かせ、咬まれた部位を挙上しないようにして、早めに病院を受診するようにしてください。

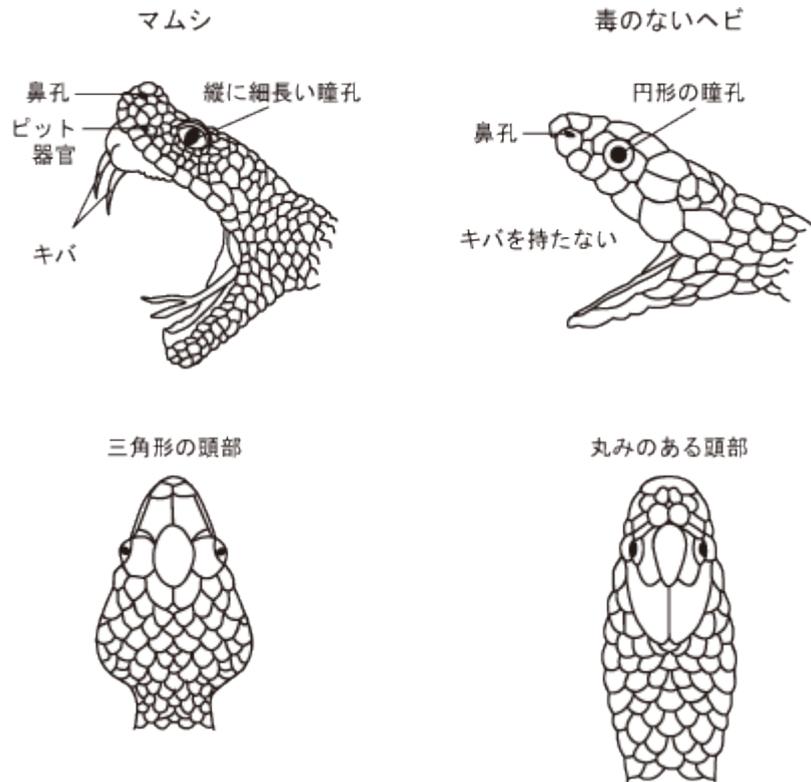


ヤマカガシ



マムシ

マムシの見分け方



セアカゴケグモに咬まれた場合

セアカゴケグモは、本来日本国内には生息していませんでしたが、1995年に大阪府で発見されて以降、2014年9月時点で35都道府県にまで広がっており、このままだと今までいなかった県でも発見される可能性があります。セアカゴケグモの性格は基本的にはおとなしく、素手で触るなどしなければ、咬まれることはありません。セアカゴケグモの毒は神経毒の「 α -ラトロトキシン」ですが、これを持っているのはメスだけです。オスも毒を持っていますが、人体に影響を与えるほどではないと言われています。メスは全体的に黒く、腹部背面によく目立つ赤色の模様があり、体長は約10mm程度で脚を広げると約30mm程度です。また腹部下面にはゴケグモ類の特徴である砂時計の薄赤色の斑紋があります。オスはメスより小型で細く、メスとは異なり腹部背面に赤い模様は見られませんが、腹面にはメス同様に赤い模様を持ちます。生息場所は

側溝の内部やその網蓋の隙間、宅地の水抜きパイプの内部、フェンスの基部、花壇のブロックの内部など、巣を作る隙間があり、日当たりが良く、暖かく、餌となる昆虫のいる所に巣を作り繁殖します。駆除方法は成体、幼体共に靴で踏み潰すか、殺虫剤を噴射して駆除します。ただし、卵は殺虫剤が効きにくいので、潰すか焼却する必要があります。セアカゴケグモに咬まれた直後は軽い痛みを感じる程度ですが、次第に痛みが全身に広がり、悪化すると多量の汗をかいたり、寒気、吐き気、嘔吐、発熱などの神経毒による全身症状が現れることがあるので、医療機関で治療を受けることが必要です。今まで日本では死に至ったケースはありませんが、乳幼児が咬まれると痛みのため泣き叫び、症状の進行は早く、重症になりやすいので注意が必要です。



セアカゴケグモ

指輪が抜けなくなったとき

石鹼で指を湿らせて、ゆっくりと指輪を抜いてください。それでも抜けない場合は、指輪に糸を通して指の根元から先端の方により合せながら糸を巻きつけ、指輪に通した側の糸を指先の方に巻きつけた糸をほどくようにして、徐々に抜いてください。長時間すると、指先等が紫色になりしびれ等を伴いますので注意しながら行ってください。それでも抜けない場合は、最寄りの病院や消防署に相談してください。